

患者の背景や診療にかかわる情報を「つながり」を通じて得る

医療法人利光会 五反田病院

理事長兼院長
五反田清和氏

管理栄養士
井上悦子氏

一人が何役も担ってこそ地域に求められる病院

病院敷地内のカフェでのイベントや、マルシェの開催など、地域とつながる機会や場を大切に行っている五反田病院。患者やその家族、地域住民とのかかわりのなかで、さまざまな情報を取得し、診療や栄養指導にも役立てています。地域とつながる医療機関として思いや、管理栄養士に求められることについて聞きました。

五反田病院では、管理栄養士に限らず職員一人ひとりが地域とつながることを大切に行っています。

患者さんやその家族、地域の方とのつながりは、患者さんの背景を知ることにつながり、そこから得るヒントが診療に反映されることもあります。

有難い事に土地柄、患者さんや地域の人たちから自家製の野菜や米などを頂くことがあり、患者さんの真心を感じ、温かい気持ちになります。こういう思いを地域の方と分かち合いたいと思いマルシェをしようという発想が生まれました。今年3月に「五反田野菜マルシェ」を開催。病院内外から多くの人が訪れ、大盛況でした。病院と地域の方々がつながるともよい機会にもなったと思っています。

当院では、専門職が自身の役割だけを担うことを良しとしています。

せん。一人何役もやってこそ地域医療だと思います。地域に親しめる病院であるには、一人一人が状況に応じて様々な役割を担うことが大事だと思っています。

「食」は患者さんにとって大事なものであり、特に入院患者さんにとっては一番の楽しみでもあります。心も身体も喜ぶお食事を提供できるように、地域との繋がりを深め、新しい発想で食への挑戦をしていきたいと思っています。（五反田清和理事長兼院長）

会話の中で得る情報の有益性 共感し何ができるか考える

病院の中で栄養指導をする際に必要な項目を順番に尋ねると、患者さんは問診をされているように感じてしまいます。地域とのつながりや、何気ない会話・雑談や挨拶を大切にすることで気づいたのは、患者さんの背景や困っていること、好みなどの情報は自然と発生した会話の中でのほうが得られるということです。



管理栄養士 井上悦子氏



理事長兼院長 五反田清和氏

栄養指導の場だと、どうしても指導する側とそれを受ける側の関係なってしまう。そうではなく、こちらも患者さんの情報を教えてもらい、そこに共感をする。とで、何かしてあげたい・何ができるだろう、考えを持てるようになります。

病院の中だけでのつながりでは得られない、患者さんやその家族、地域の方々との信頼関係の重要性を日々の業務や病院が開催するイベントを通じて感じています。

（管理栄養士 井上悦子）

医療法人利光会 五反田病院
大分県日田市若宮町395-1
0973-23-8386

概要